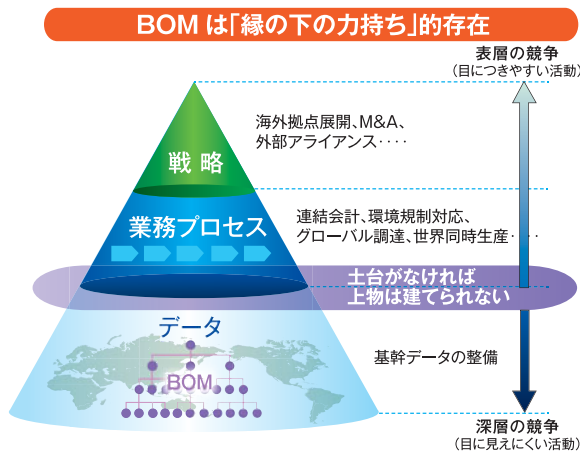


海外拠点の機動力を高めるBOM統合の重要性 地域、企業を越えた、生産効率化成功の「鍵」とは？

近年、製造業でも頻繁に行われているM&A。だが、その成功率は一般に3〜5割と言われており、シナジーを生み出せないケースも少なくない。その要因の一端は、BOM※1統合の失敗にあると、専門家は見る。M&Aばかりではない。「グローバルBOM統合」は、製造業の海外進出をドライブするため、欠かすことのできないキーワードとなりつつある。企業や地域を越えBOMを共有化し、スピーディーな連携ができる環境を整えなければ、シナジーも生産の効率化も、到底望めないからだ。

グローバルBOM統合が海外拠点の機動力を高める

製造業のグローバル化が進む中で見えてきた新たな課題の一つに、BOMの統合がある。設計にひもづくE-BOM※2と、製品製造時に必要な情報を付加したM-BOM※3を、いかにスムーズに連携させるか。従来から、部門間を一通貫する「統合BOM」の必要性は言われてきたが、生産拠点のグローバル化や企業統



合により、地域や企業を越え統合する「グローバルBOM統合」へのニーズが、一気に高まっている。

NTTデータグループのコンサルティングカンパニー・クニエのディレクター 荒川勝彦氏によれば、製品品質の管理、現地調達時の部品品質、レート管理等のベースとしてBOM情報は必須であり、その統合ができていなければ連結決算等のグローバルなオペレーション時に困難を極める。これがM&A失敗の要因の一つともなっているという。

統合が生産工程の無駄を省き 大幅なコスト削減を実現

本社製品設計部門・海外拠点生産設計部門間のE-BOM集中管理、E-BOMと海外生産拠点M-BOMとの連携がなされていけば、地域を越えた製品品質の管理が容易となる。その結果「顧客ニーズに応じた製品仕様の管理（バリエーション管理）をワールドワイドで二元化することが可能となる」（荒川氏）という。

が必要だからだ。

「BOM統合は製品品質の向上をサポートし、コスト低減に寄与する業務プロセス改革の大きな第一歩です。その実現に重要となるのは、理想型のTo Beをまず明確に定義し、その上で費用対効果のバランスをとりながら、まずはできるところからというCan Beから着手することです」（荒川氏）

骨、神経、血管が形成されれば、その上にはたくましい筋肉が付く。海外進出の好機を逃さないためにも、BOM統合という一歩を早々に踏み出さない手はない。

荒川 勝彦
株式会社クニエ ディレクター

外資精密機器メーカーにて生産設計、生産業務に従事した後、コンサルティングファーム・Sierを経て現職。設計プロセス改革、生産計画、品質統合、BOM再構築関連業務を中心に業務改革、PLMシステム導入サポート、コンサルティングに精通。プロジェクトをリードする。

クニエはNTTデータグループのビジネスコンサルティング会社です。様々な変革に挑戦されるお客様のパートナーとして、高度な専門性と経験を有するプロフェッショナルが幅広いソリューションを提供し、お客様の変革の実現をグローバルベースで推進致します。

※1 BOM: Bills of materials 部品表 ※2 E-BOM: Engineering BOM ※3 M-BOM: Manufacturing BOM